

登録番号⑩

テーマ:自閉症、発達障害の方と共に

自閉症の方は、言っ**て**わかってる**よう**に見えても、わかってない、聞いてない、いくつ**も**言**われ**ると**ど**れ**か**ら**し**たら**い**い**か**わ**か**ら**な**く**な**る、い**っ**ぱ**い**言**われ**ると**わ**れる**言**葉は消**え**て**し**ま**う** 勘**違**い**し**て**し**ま**う** など**な**ど**あ**り**ま**す。

世**の**中**の**ル**ー**ル**が**わ**か**り**に**く**い**、**そ**の**場**の**様**子**が**わ**か**り**に**く**い**の**で**、**短**い**言**葉**で**わ**か**り**や**す**く**伝**え**たり、**書**いて**説**明**を**し**て**ま**ら**え**る**と**助**か**り**ま**す**。

お**話**し**メ**モ、**ふ**き**だ**し**メ**モ **で**書**い**て**ま**ら**え**る**と**、**伝**わ**り**や**す**い**で**す。

ル**ー**ル**違**反**を**し**て**い**た**ら、**そ**の**時**に、**わ**か**り**や**す**く**い**け**な**い**理**由**を**つ**け**て**説**明**し**て**ま**ら**え**る**と**あ**り**が**た**い**で**す。

ニックネーム はるひ さん

登録番号④

テーマ:ことばの訓練

現在、周南養護学校(現 周南総合支援学校)より鼓ヶ浦整肢学園(現 鼓ヶ浦こども医療福祉センター)のことばの教室に通っている。

発声、声の出し方から訓練を受けているが、幼児の訓練は、人数が多く、順番待ちだと聴いている。

鼓ヶ浦以外でも、専門的な訓練を受けれるところを増やせないのか？

ニックネーム 知的障害 さん

第1回目交流会（H30.8.4）での発言、意見等

2.目に見えない・コミュニケーションに関わる課題(発達障害や精神障害等)

登録番号⑩ 自閉症・発達障害のある方とともに

登録番号④ ことばの訓練

◆登録番号⑩と登録番号④を一緒に読み上げて、意見を伺った。

a. 【相談支援専門員より】

「発達障害=話せない,知的障害=話せない」ではない。障害の部分は個人個人で違う。通常は、乳幼児健診等で医療機関を紹介され、フォローされるが、そうでない場合もある。

ことばに関して言うと、ご家族あるいは周囲の気づきが大切と思う。鼓ヶ浦こども医療福祉センター以外に、ことばの教室が下松小学校にあるが、どちらも需要と供給バランスの課題があり、特に幼児期の利用希望児は、待機時間が長い現状がある。言語聴覚士という専門の人材を要するので、急には増やせない。しかし、ことばの発達には、幼児期が特に大事な時期であり、これから知識を伸ばしていく基礎となる部分なので、ジレンマな部分である。

第1回目交流会（H30.8.4）での発言、意見等

2.目に見えない・コミュニケーションに関わる課題(発達障害や精神障害等)（続き）

登録番号⑩ 自閉症・発達障害のある方とともに

登録番号④ ことばの訓練

b. 【初めての子どもさんが3歳の時、突然、発達障害と言われたご両親から】

1人目だから、この子がおかしいのかおかしくないのか、ほんとにわからなくて、不安な気持ちを持ちながら、3歳児健診を受けたら、専門機関を紹介され、発達障害ですとの診断を受けた。その時の心境や今、発達障害をどうとらえているか等を母親の立場、父親の立場から、それぞれに語られ、「発達障害って、生きづらいですか?」という質問を場内に向けてされた。

⇒⇒ c. 【上記 b に対して、当事者の方から】

会社勤めしているが、一度にたくさんの用事を言われると、混乱してしまう。

⇒⇒ d. 【上記 b に対して、当事者のお母さまから】

ご両親のお気持ちはすごくよくわかる。まだ今のように発達障害も取り沙汰されない頃、全く未知の世界で先のわからない状態で、私たちも戦ってきた。幼少期は、すごく多動で、しゃべらないので、幼稚園も付き添って・・・、そしたらすごく話せるようになってわからないものだなあと思った。現在、障害者雇用枠で就労しているが、良く噛み砕いて説明もなく、なぜできないのか、なぜやらないのかと誤解を招きやすい状況や、会話の取り違えで生じる事柄等もあるが、いろいろな人に支援をしてもらいながら、世の中の厳しい現実と向き合い、日々戦っている。

第1回目交流会（H30.8.4）での発言、意見等

2.目に見えない・コミュニケーションに関わる課題(発達障害や精神障害等)（続き）

登録番号⑩ 自閉症・発達障害のある方とともに

登録番号④ ことばの訓練

（続き）

⇒⇒ e. 【上記 b に対して、下松市から】

周りの理解がないために、本人の思いとうまくかみ合わず、嫌な思いをしてうつ状態になったり、疑い深く人の言うことをねじれてとったりすることを二次障害といい、発達障害の育てにくさを2重、3重にするものですが、それをできるだけ最小限にして、楽に子育てできる手立てを10年以上勉強してこられているグループが下松にはある。あじさい勉強会というお母さま方のグループですが、今年度、その方々と「先輩ママとの子育て勉強会」という会を立ち上げ、育児に悩んでおられるお母様方を対象にその手立て(視覚支援)の勉強会を始めた。よろしければ、ご利用ください。

⇒⇒ f. 【上記 b に対して、相談支援専門員から】

一番大変なのは当事者さん、そして、それを一番身近に支えているのはご家族、どちらも、ひとりで抱え込まずに、「相談できる人を探してください。」でなくて、「相談できる専門員がいますので、相談してほしいです」。

⇒⇒ g. 【上記 b に対して、当事者のお父さまから】

発達障害の人には、好きか嫌い、白と黒の世界しかない。ちょっと嫌なことを言われるとこの人嫌い、と黒の世界になってしまう。これでは、本人がとても困ることになるので、黒と白の間にグレーの引き出しをたくさん作ってあげる。それが療育の世界。経験から、療育は、10歳位までに。大きくなってからでは本人の自覚にもよりますが、難易度が上がる。